



ある雑誌に、【スーツケース」から「ふろしき」の学校に】ということばがありました。心にとまったので、紹介します。

学校という「スーツケース」に子どもを入れようとしている限り、誰一人取り残さない学校づくりは実現しません。この多様な時代に生きる子どもたちです。「スーツケース」のキャパに入る子どもは限られます。長い棒のような子どもはポキッと折らなければ入れません。大きな風船のようなタイプの子はプシュッと空気を抜かなければならないでしょう。学校に子どもを合わせる時代ではなくなっているのです。

新たな発想で「スーツケース」を「ふろしき」に変えませんか。校長の「ふろしき」を広げ、教職員のそれぞれの「ふろしき」をつなぎ合わせるのです。それだけでは安心して学ぶ居場所がない子どもも当然いるでしょう。サポーター（保護者）や地域の人たちの「ふろしき」を次から次へつなぎ合わせるのです。「ふろしき」は一枚とて同じものはありません。大きさもやわらかさもみんな違います。違っているからすべての子どもにとっての安心な居場所が生まれるのです。気づけば、学校が多様な共生社会になっています。「ふろしき」はつなぎ合わせて、学校に居場所がない子どもの足元まで無限に広げることができます。発想を変えてみませんか？

(教職研修 2023.4 大阪市立大空小学校 初代校長 木村素子)

「さて、今の平野小学校はどうだろう。」と、考えさせられることばです。平野小学校は、子どもにとって、「スーツケース」「ふろしき」のどちらでしょう。子どもは、一人ひとり、みんな違って当たり前です。同じ子どもは絶対にいません。「ふろしき」の学校を、「ふろしき」の学年を、「ふろしき」の学級を、「ふろしき」の地域を、そして、「ふろしき」の家庭を……。子どもたちが安心して過ごせる学校づくりを、地域づくりを、家庭づくりをしていきたいものです。

### ～「校長先生へのお手紙ポスト」から～

- こうちょうせんせいいちねんかんよろしくおねがいします(1年生から)
- いつもありがとうございます わたしもこれからがんばります(1年生から)
- にゅうがくしきのときありがとうございました。(1年生から)
- こうちょうせんせいおはようございます。ひらのしょうがっこうにゅうがくしたばかりです。ひらのしょうがっこうになれてうれしいです。♡ありがとうございます。これからもよろしくおねがいします。だいすきです。♡(1年生から)
- 1ねんかんよろしくね たいく(体育)したよ(1年生から)
- だいすきだよこれからいっぱいおしえてね。すごくまってるよ。(1年生から)
- いつもせいとのクラスを見まわってくれてありがとうございます。これからもよろしくおねがいします。(2年生から)
- いつも、あんぜんな学校を作ってくれてありがとうございます。新しい一年生が入ってきましたね。これからもがんばってください。(3年生から)
- 校長先生、わたしのいいところは、明るいところだそうです。クラスのいいところは、元気なところなんです。先生のいいところは、みまわりをしているところなんです。みまわりをしてくれて、ありがとうございます。(3年生から)
- いつも平野小を見守ってくれてありがとうございます。私は6年生だけど、平野小を引られる自信は正直ありません。だから、校長先生にとってもあこがれています。これからもみんなが楽しめる学校を作れるようにがんばります。(6年生から)



ポストに、かわいい絵も届きました

今日見つけた、「ひらのっこ」のよき

- ① 平野小学校の1年生として、強い意欲を持っている。
- ② 平野小学校の6年生として、強い責任感を持っている。
- ③ 校長先生を、はげましてくれる。